

## 新潟県中越沖地震から学ぶ原子力発電所の耐震安全性の課題

入倉孝次郎

2007年7月16日の新潟県中越沖地震 ( $M_{JMA}6.8$ ) は原子力発電所の極近傍に発生し、それにより発電所の建物・施設が震度7の強震動の直撃を受けた。原子炉の基礎版で記録された地震動は耐震設計のために想定された地震動のレベルを最大で約2.5倍も上回るものであった。原子力発電所の被害については、変圧器の火災、貯蔵庫内のドラム缶の転倒、極微量の放射性物質の放出などはあったが、現在のところ、原子炉や原子炉建屋など安全上重要な設備には目立った損傷はないと報告されている。このように大きな地震が原子力発電所の近くで起こったのは国内のみならず国際的にも初めてのケースで、日本の原子力発電所のみならず、地震国にある各国の原子力発電所の耐震安全性に大きな問題を投げかけた。今回の地震を受けて、今後の原子力発電所の耐震安全性を確保するために検討すべきことは何かについて報告する。